

2021年4月22日に開催された第1回理事会(臨時)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●理事候補者の決定について

役員候補者推薦委員会議長より、役員候補者推薦委員会での審議の経過説明があり、委員会で決定された23名の理事候補者リストが提出された。

これを受けた理事会では、2021年6月に開催される定時評議員会に提出する理事候補者案について議論が行われ、20名の理事候補者が承認可決された。

<役員候補者推薦委員会からの説明>

役員候補者推薦委員会議長より、理事候補者リスト23名が決定されるまでの審議の状況について以下の通り説明があった。

■役員候補者推薦委員会について（敬称略）

- ・メンバーは、評議員、代表理事または業務執行理事、業務執行理事以外の理事、監事、職員、外部有識者2名の計7名で構成される。

- ・日程：第1回 3/15（月）14：00～17：00、
第2回 3/22（月）15：00～17：00
第3回 3/26（金）13：00～16：30
第4回 4/18（日）9：00～11：00

スポーツ庁からガバナンスコードの遵守を求められているため、多様性、実行性、人事の新陳代謝、女性・外部比率などを参考として、カテゴリー分けを行い、「JVA」「全国連盟」「都道府県協会+9ブロック」「アスリート」「外部」「その他（複合）」の6つに整理し、カテゴリーバランスを検討しながら、一人ひとり個別の議論に移った。

■審議の総括・選考に向けた基本的な考え方・留意点について

[選考に向けた基本的な考え方]

①スポーツガバナンスコードを遵守した役員体制

女性（40%）・外部比率（25%）やアスリートファーストが謳われているため、競技者・指導者出身にもウエイトを置いた。

②東京五輪後のバレーボールの発展を図る新役員体制

ほぼ半数が入れ替わることとなり、新役員体制への移行が反映された。また協会の発展には現場を熟知している人物が必要である点も考慮した。

③喫緊の課題として財務状況改善に向けた十分な役員体制

コーポレートガバナンスやスポーツマネジメント、スポーツ団体の経営など外部有識者に参画いただき財務基盤の強化も考慮した。

[留意点について]

①6月17日の定時評議員会で役員改選が行われ、東京五輪開会式が7月23日であることから、東京五輪に影響が及んではいけない。実施における担当の継続性には配慮した。

②本委員会で推薦候補者15名を下回る場合は新たな手続きが必要となってしまうので、定款に定める定足数を欠くことなく、少なくとも15名は候補者を確保するようにする。

③役員候補者を決定する中で、理事会での審議、その次の評議員会で最終決定（選任）をするので、この機能を担保するためにも20名を超える人数を確保するのが適当ではないか。

以上の基本方針に基づく審議を経て23名の候補者が選出された。

役員候補者推薦委員会での経緯説明を受け、理事会ではまず、「理事候補者の推薦人数に関する議論」、次に「理事候補者20名に関する議論」が行われた。

議論の中では、役員候補者推薦委員会での審議や提案内容を尊重しつつも、業務を執行する体制（業務執行理事を担う候補者）を確保する必要性が確認され、理事定足数の上限である20名の理事候補者が理事会にて選出された。

また、今回の20名の候補者に限らず、理事会において専門的な立場から意見やアドバイスをしていただくための運営委員（決議権はない）の就任を次期新体制において検討することについても同時に確認された。

なお、理事候補者20名については、2021年6月に開催される定時評議員会に提案され、評議員会の承認をもって正式決定・発表されるため、今回決定された候補者の氏名については非公開とする。

<報告事項>

● 2020年度の資金運用について

今年度の運用はコロナショックによる日経平均株価の暴落(昨年3月19日)前の水準以上に回

復したことを受けて、昨年の倍に近い成果をあげられた。全体で739百万円を運用し、2,826万円と過去最高の運用益を達成できた(利回り3.8%)。2014年度から運用を開始し、獲得した累積利益は9,400万円にのぼる。

※2020年度の資金運用についての詳細は資料記載の通り

●日本代表選手の選出について

国際バレーボール連盟(FIVB)よりバレーボールネーションズリーグ(VNL)の開催日程の公表があった。

【開催地】

男女ともにイタリア、リミニ

【日程】

(予選) 16チーム総当たり戦： 女子：5/25～6/2 男子：5/28～6/23
(ファイナル) 上位4チーム出場： 女子：6/24、25 男子：6/26、27

この大会の後、東京五輪の内定選手12名を選び発表する。

以上